

(独立行政法人教員研修センター委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発事業

報 告 書

プログラム名	教員研修と教職大学院での現職教育等を総合化して生涯にわたる教員の 職能成長を支える研修システムの構築 －研修の単位化やポイント制の実現に向けて－
プログラム の特徴	当教職大学院で主催・共催しているラウンドテーブル等と、福井県教育委員 会（教育研究所等）が実施している「基本研修クロスセッション」「中堅 教員研修」などとの関連・融合（コラボレーション）を図る。 また、当教職大学院で新たに設置した「学校改革マネジメントコース」と 連動させて、教育委員会及び教頭会・主任会等と連携・協働した学修支援シ ステムやコースカリキュラムの在り方を形成する。 これらを足掛かりとして、教職大学院での現職教育と教育委員会が実施す る教員研修を相互互換できる研修システムを構築する。

平成29年3月

機関名：国立大学法人 福井大学 連携先：福井県教育研究所

プログラムの全体概要

※ 各教育委員会等の研修実施の参考例となると思われる開発成果を中心に、プログラムの全体概要をポンチ絵等でまとめてください。



I 開発の目的・方法・組織

1. 開発目的

平成27年12月の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について ～学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて～」においては、「教職大学院は独立行政法人教員研修センターとも連携し、大学と教育委員会・学校との連携・協働のハブとなり、学部段階も含めた大学全体の教員養成の抜本的強化や現職教員の研修への参画など地域への貢献の充実を図る」「現職教員については教職生活全体のキャリアの中に教職大学院での学びを位置付ける」「管理職コースの設置や教育委員会との連携による管理職研修の開発・実施を行う」などと提言されている。

当教職大学院においては、大学院の授業の一環として、これまで年2回の実践研究福井ラウンドテーブルを長年にわたり積み重ね、院生の学びや専門性開発を支援するだけでなく、地域の学校の発展支援、教師の成長支援等に貢献してきた。加えて、現在、全国6ヶ所で当該所在地の大学と共催・協力によりラウンドテーブルを展開しているところである。また、平成28年度からは、新たに「学校改革マネジメントコース」を設置し、学校管理職を対象として組織マネジメントの力を育成している。

当教職大学院と福井県教育委員会（教育研究所等）とは、これまでも、教員研修への講師派遣や、教育研究所等職員のラウンドテーブルの参加、新任教頭研修での教員免許更新講習の活用、ミドルステップアップ研修受講者と院生とのクロスセッションといった連携を図ってきており、また、教育研究所においては、研修の単位化やポイント制について検討している。

これらを踏まえ、教職大学院での現職教育と教育委員会が実施する教員研修との更なる連携・関連・融合（総合化）を目指し、相互互換できる研修システムを構築するとともに、研修の単位化やポイント制を活用した教員研修の在り方に資する。

2. 開発の方法

① 実践研究福井ラウンドテーブルとの関連・融合（コラボレーション）

- 教育研究所が実施している「基本研修クロスセッション」（初任者、2年目、5経年者、10経年者対象者が、世代・校種を超えて教育実践を語り合う）とリンクさせる。
- 教育研究所が実施している「中堅教員研修」の受講者が今年度の取組（研修課題や成果等）について発表、報告する。
- 教育研究所、特別支援教育センター、幼児教育支援センターの研修講座のメニューの一つとして位置付け、県内の教職員全員を対象として、その参加を奨励する。

② 全国各地で展開するラウンドテーブルへの参加

教育研究所等の研修講座の参加対象者が、その発展的研修プログラムの一環として参加する。（宇都宮、東京、静岡、奈良、長崎、和歌山）

③ 「学校改革マネジメントコース」との連動

管理職を対象としたコースという性格も踏まえ、院生の所属（勤務）する学校だけでなく、その地域（市、町）をも巻き込みながら、管理職養成の学修支援システムやコースカリキュラムの在り方について考えていく。具体的には、市町教育委員会と連携しながら、教頭会や主任会等とコラボレーションする方策を探る。また、教育研究所が実施している中堅教員研修とのコラボレーションも計画する。

④ 大学・教育委員会の全国ネットワークの構築

全国各地で開催されるラウンドテーブルにおいて、教員の育成指標やキャリアステージに応じた研修体系を作成している先進的な府縣市との交流を図り、研修の単位化やポイント制の具体化について協議するなど、大学・教育委員会の全国ネットワークの構築に寄与する。この取組の一環として、実践研究ラウンドテーブルに全国の大学や教育センター等の関係者を招聘する。

⑤ 連携協議委員会の開催

教職大学院と教育研究所の関係者による連携協議委員会において、事業の進捗状況の確認や課題整理などの協議等を行う。

3. 開発組織

教職大学院専攻長 — 教職大学院教授（事業担当者）

教育研究所研修部長 — 教育研究所研究員（研修担当者）

II 開発の実際とその成果

1. 実践研究福井ラウンドテーブル

○ 研修の背景やねらい（※ねらいについては、明確に記述）

福井県内外から多数の教員や研究者が集まり、お互いの教育実践と教育実践研究を交流し合い、各々の実践的・力量形成を目指す。

実践記録を土台に実践の長い歩み、そのプロセスをじっくり語り、聴き合い、互いに問い深める時間と空間を生み出す。語られる展開に耳を傾け、活動の場面を共有し成長のプロセスを探る。実践の過程をじっくり語り・聴き合う場、実践を共有して協働探究できる関係が広く培われていくことが、その後の実践への問いの深まりを支える拠り所となる。ラウンドテーブルは、一過性の集会ではなく、それぞれの実践のコミュニティでの営みとその意味を問い返し、その持続と発展を支える省察的なコミュニケーションのためのメタコミュニティとして働き続ける。

また、中央教育審議会答申（H27.12.21）においても、「教員は学校で育つ」ものであり、同僚の教員とともに支え合いながらOJTを通じて日常的に学び合う校内研修の充実の支援が提言されているように、「実践研究福井ラウンドテーブル」では、“職場や地域の中にコミュニティをどのように構築するか”を大事な視点としている。

○ 対象、人数、期間、会場、日程、講師

対象：幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員、教育委員会関係者、
大学教員、学部・大学院生、社会教育関係者（公民館など） 他

人数：約500人（うち県内の教員等 約100人）（6月）

約700人（うち県内の教員等 約170人）（2月）

期間：平成28年6月24日～26日（3日間）

平成29年2月17日～19日（3日間）

会場：福井大学文京キャンパス、AOSSA

日程：1日目 教職大学院におけるプロセスコンサルティング

2日目 特別企画フォーラムやテーマ別に各 Zone に分かれ、シンポジウムや
フォーラムを行う

3日目 ラウンドテーブル クロスセッション

（6月、2月とも共通）

講師等：別添資料のとおり

○ 各研修項目の配置の考え方

実践研究福井ラウンドテーブルでは、毎回、Zone A「学校」、Zone B「教師」、Zone C「コミュニティ」、Zone D「授業研究」という4つテーマに分かれて、シンポジウムやフォーラムを行うとともに、学校種や職種、地域などができるだけ異なるように小グループを編成してクロスセッションを行っている。また、その時々で特別企画フォーラム等も開催している。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、

使用教材、進め方（※実施方法については、具体的に記述）

平成28年6月24日～26日（3日間）

研修項目	時間数		目的、内容、形態、使用教材、進め方等
Zone A 「学校」	10分	オリエンテーション	「子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ」－チームで「育ち」を支える－ 学校現場で実践をしている方々の発表や、参加者との語り合いを通じて、チームでのアプローチについて具体的に考え、これからの学校教育全体に対する教師コミュニティの可能性について深め合う。
	60分	ポスターセッション	
	90分	シンポジウム	
	100分	フォーラム	
Zone B 1 「教師」	10分	オリエンテーション	「学校を刷新するマネジメントリーダーの資質能力を問う」 これからの組織マネジメントの在り方やマネジメント
	60分	ポスターセッション	

Zone B 2	90分 100分	セッション シンポジウム フォーラム	トリーダーに求められるもの、またその養成などについてシンポジウムを行う。フォーラムでは、シンポジウムを受け、参加者とともに小グループによるセッションを行う。 (省略)
Zone C 1 「コミュニティ」	10分 60分 90分 100分	オリエンテーション セッション ポスターセッション シンポジウム フォーラム	「学び合うコミュニティを培う」 ー若い世代と地域を結ぶー 若い世代が主体的に活動を進め、地域に参画していることの意味を確認しながら、新しい世代の活動をどのように支えていけるのか、また、それをどのようにコーディネートしていけるのかを各地の取組事例をもとに考える。フォーラムでは、シンポジウムを受け、参加者と共に小グループによるセッションを行う。
Zone C 2 「コミュニティ」	10分 60分 90分 100分	オリエンテーション セッション ポスターセッション シンポジウム フォーラム	「地域と学校はいかに学び合うのか」 ー大人も子どもも育ち合うコミュニティへー 学校と地域のかかわりを捉え直そうとしている活動や、地域に暮らす大人たちと子どもたちとの結びつきを編み直す各地の取組事例をもとに考える。フォーラムでは、シンポジウムを受け、参加者と共に小グループによるセッションを行う。
Zone D 「授業研究」	10分 60分 90分 100分	オリエンテーション セッション ポスターセッション シンポジウム フォーラム	「教師の資本を授業研究によっていかに培うのか」 ー子どもと教師の学びを支えるためにー 何のために授業研究を実施するのか、いかなる授業研究を実施するのか、どのように授業研究を実施するのか、授業研究の力を教師の「専門職の資本」へ投資するという観点から考える。
ラウンドテーブル クロスセッション	30分 100分 60分 100分	オリエンテーション セッション等 報告Ⅰ 報告Ⅱ 報告Ⅲ	「実践の長い道行きを語り、展開を支える営みを聞き取る」 実践記録を土台に実践の過程をじっくり語り・聴き合う。教育研究所が実施している「基本研修クロスセッション」や「中堅教員研修」の受講者も参加し、実践報告やその聴き手となる。

平成29年2月17日～19日（3日間）

研修項目	時間数		目的、内容、形態、使用教材、進め方等
Zone A 「学校」	10分 60分 90分 100分	オリエンテーション ポスターセッション シンポジウム フォーラム	「子どもたちのコミュニティを支える教師のコミュニティ」－支え合うコミュニティに向けて－ 幼児教育から世代を超えて学び合い育ち合う保育士たちの実践について、小学校から自主的な実践の学び合いの意義について、特別支援教育から実践知の継承の取組について発表してもらい、教師や保育士のコミュニティを支え合う実践について参加者同士が語り合う。
Zone B 0 「教師」	90分 110分 105分	プレゼンテーション フォーラム セッション	「福井型教育の日本から世界への展開」 日本の学校を支える教育システムの中でも特に優れた成果を示している「福井型」の教育システムを、アフリカを皮切りに世界に発信することにより、21世紀の学校づくりと教師の学びのための専門職学習コミュニティ・ネットワークを世界に創設することをテーマとする。
Zone B 1 「教師」	10分 60分 90分 100分	オリエンテーション ポスターセッション シンポジウム フォーラム	「管理職養成の今日的な意義を考える」 －教職大学院の可能性と課題－ 管理職養成の今日的な意義や教職大学院の役割などについて、マネジメントリーダーの資質・能力、カリキュラム・マネジメントや「チーム学校」を実現できるような教職大学院のカリキュラムの在り方なども交えながら議論する。フォーラムでは、シンポジウムを受け、参加者ととも小グループによるセッションを行う。
Zone B 2			(省略)
Zone C 「コミュニティ」	10分 60分 90分 100分	オリエンテーション ポスターセッション シンポジウム フォーラム	「何がコミュニティの持続的な発展を支えているのか」 コーディネーター個人の力量ではなく、それぞれの取組の発展を持続可能なものに行っている仕掛けやコミュニケーション構造に目を向け、これからスタッフが入れ替わっても発展を持続させるためにどのような取

			組が求められるのか考える。
Zone D 「授業研究」	10分	オリエンテーション	「子どもと教師の学びを支えるために授業研究をいかに組織するか」 授業研究の力を教師の「専門職の資本」へ投資するという観点から、次期学習指導要領改訂に向けて「子どもと教師の学びを支えるために授業研究をいかに組織するか」をテーマとする。
	60分	ポスターセッション	
	90分	シンポジウム	
	100分	フォーラム	
保幼小教育 フォーラム	80分	実践報告 セッション	「子どもの世界を広げ、つなぐために」 幼児期から学童期の、子どもの世界が広がっていく始まりの時期に焦点を当て、園や学校でどのように子どもたちの育ちを支えられるのか考える。
特別企画 フォーラム	5分	オリエンテーション	「社会に開かれたイノバティブな中等教育の挑戦：財務省との連携に基づく「財政教育プログラム」の試み」 財政教育プログラムを受講した生徒自身にその学びを語ってもらい、そこからこのプログラムがもたらしたものの、実践の持つ意味や可能性について理解を深める。
	20分	説明	
	45分	トークセッション	
	10分	まとめ	
ラウンドテーブル クロスセッション	30分	オリエンテーション等	「実践の長い道行きを語り、展開を支える営みを聞き取る」 実践記録を土台に実践の過程をじっくり語り・聴き合う。教育研究所が実施している「基本研修クロスセッション」や「中堅教員研修」の受講者も参加し、実践報告やその聴き手となる。
	100分	報告Ⅰ	
	60分	報告Ⅱ	
	100分	報告Ⅲ	

※実施要項、テキスト（教材、レジメ、演習問題等）、その他参考となる資料を添付してください。（DVD教材等を作成した場合は、別途、当センター宛に郵送ください。）

○ 実施上の留意事項

各 Zone におけるシンポジウムの後のフォーラム、ラウンドテーブルのクロスセッションにおいては、学校種や職種、地域などができるだけ異なるように小グループの編成を行っている。これは、異質性が高まれば高まるほど、お互いが共有できるより基盤・本質に近いところまで掘り下げて語らなければならず、それは自己の教育的価値観の問い直しにつながるからである。

○ 研修の評価方法、評価結果

当教職大学院では、広報誌として「ニューズレター」を発行しているが、このニューズレターは、教育研究活動のみならず、管理運営や施設設備まで内容に含み、自己評価・相互評価・外部評価等の基礎資料としての役割を果たしているものである。

この「ニューズレター」において、ラウンドテーブル開催後に特集号を組み、教職大学院教員からその概要と考察、参加者からの意見や感想などを掲載している。（別添資料）

○ 研修実施上の課題

年々、規模が拡大し、参加者も増える傾向にあり、運営面での負担が大きくなっている。コンテンツが多くなることにより、ラウンドテーブルの本来の趣旨や目的が何であるのか見失うことにならないようにしたい。年2回開催していることを踏まえ、6月開催分と2月開催分との差別化や区別化を図ることも一考である。

2. 全国各地で展開するラウンドテーブルへの参加（1例をあげる）

[実践研究長崎ラウンドテーブル]

○ 研修の背景やねらい（※ねらいについては、明確に記述）

- ・ 2012年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」に教員養成版として福井大学が採択され、その後「グローバル社会に必要な教師教育の革新をスピーディに実現する連携事業の推進」を受けて、教師教育改革コラボレーションが設置された。長崎大学は教師教育改革コラボレーションに2014年4月から参画しており、それを契機としてラウンドテーブルを開催するようになった。
- ・ 少人数（7名程度）で「互いの実践について、じっくりと語り、聴き取り、考え合う」ことを通して、実践について学びあう。その中で一人ひとりが、省察的で主体的な実践者としての力を培っていく。
- ・ 学校教育に限らず様々な領域や立場の人が、地域を超えて集い、語られる実践に興味を持って聴き合って学び合う点を、特徴の一つとする。
- ・ 語られる展開に耳を傾け、活動の場面を共有し、成長のプロセスを探っていく。

○ 対象、人数、期間、会場、日程、講師

対象：幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員、教育委員会関係者、大学教員、学部・大学院生、社会教育関係者（公民館など） 他

人数：112人（うち福井県からの参加者10名）

期間：平成28年11月5日～6日（2日間）

会場：長崎大学文教キャンパス

日程：1日目 9:00～10:20 ポスターセッションⅠ

10:30～12:00 ポスターセッションⅡ

13:00～14:00 シンポジウム

14:10～15:40 講演 1
 15:50～17:00 講演 2
 2 日目 9:00～ 9:30 オリエンテーション等
 9:30～10:50 報告 1
 11:00～12:20 報告 2

講師：講演 1 文部科学省初等中等教育局教育課程課 石田有記 専門官
 講演 2 福井大学教育学部附属中学校 牧田秀昭 副校長

○ 各研修項目の配置の考え方

教育実践研究の充実及び推進のためには、教育実践研究に関する内容を発表・発信する場面と、それを多様な切り口から捉えて吟味したり、課題の解決に向けて掘り下げたりする場面が必要。

○ 各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、
 使用教材、進め方（※実施方法については、具体的に記述）

研修項目	時間数	目的、内容、形態、使用教材、進め方等
ポスターセッションⅠ	80分	教育学部教員、附属学校園教員・研究協力教員等によるポスターセッション
ポスターセッションⅡ	90分	教職大学院生のポスターセッション 教育学研究科教職実践専攻研究成果
教育実践研究シンポジウム	60分	院生によるポスターセッションを受けての総括コメント及び議論 シンポジスト 柳田泰典（福岡女学院大学教授・長崎大学名誉教授） 寺寫浩介（大阪教育大学准教授） 吉田謙吾（長崎北高等学校教諭）
講演 1	90分	学習指導要領改訂の同校について ー中央教育審議会での審議経過と今後の方向性ー 文部科学省初等中等教育局教育課程課 石田有記 専門官
講演 2	70分	授業づくりの変革 ー教える専門家から学びの専門家へー 福井大学教育学部附属中学校 牧田秀昭 副校長
ラウンドテーブル	180分	少人数のグループで日常の教育実践を語り合い、聴き合う

3. 「学校改革マネジメントコース」との連動

○ 研修の背景やねらい（※ねらいについては、明確に記述）

当教職大学院の学校改革マネジメントコースの院生（現職教員）が、域内の教頭会や主任会等、または教育研究所の中堅教員研修で、自分の研究テーマに関し実践発表することなどにより、管理職としての資質・能力の向上と域内の学校改善に資する。

○ 日程・内容等

平成28年8月8日

第1回全体研修会（対象：丸岡中学校区の小・中学校の全教職員）

院生の実践研究発表「魅力ある学校づくり」

平成28年8月18日

第2回教務主任会（対象：小浜市の小・中学校の教務主任、教育委員会指導主事等）

院生の実践研究発表「組織マネジメントについて」

平成28年9月27日

福井県大飯郡教頭会（対象：域内の小・中学校の教頭）

院生の実践研究発表

「中学校の多忙化の問題について－若手を育てる人材育成の視点から－」

平成28年10月18日

福井県あわら市小学校研究主任研修会（対象：市内の小学校の研究主任）

院生の実践研究発表

「学力向上をめざして－研究主任としてできるマネジメントとは－」

平成28年12月15日

敦賀市中学校教育研究会・「総合的な学習の時間」研究部会

院生の実践研究発表

「メンタルヘルスに配慮し、教員の資質能力を最大限に生かす

学校マネジメントの在り方」

平成28年12月26日

教育研究所が実施している中堅教員研修の受講者と学校改革マネジメントコースの院生とのクロスセッション（グループ協議）

○ 研修の評価方法、評価結果

2月に開催した「実践研究福井ラウンドテーブル」Zone B1のポスターセッションにおいて、学校改革マネジメントコースの院生が、それぞれ自校の抱える課題（自分が直面している課題）をテーマとして探究的な研究を行ってきた内容を発表・発信することで、自己評価・相互評価・外部評価等を行った。

4. 大学・教育委員会の全国ネットワークの構築

実践研究福井ラウンドテーブルにおいて、教職大学院におけるプロセスコンサルテーション、Zone B1、ラウンドテーブル・クロスセッションなどで、県外の大学や教育センター等の関係者ととともに、教員の育成や研修の在り方等について議論した。

5. 連携協議委員会の開催

- | | |
|----------|--|
| 平成28年 4月 | 現在の状況とこれからの方向性、課題等の共有 |
| 平成28年 6月 | 教員研修体系の再構築について
(教員のキャリアステージに対応した研修の在り方など) |
| 平成28年 7月 | 実践研究福井ラウンドテーブルの振り返り |
| 平成28年 9月 | 教員の育成指標について
教員免許状更新講習の共催の可能性について(1) |
| 平成28年10月 | 教員免許状更新講習の共催の可能性について(2) |
| 平成28年11月 | 次年度からの教員研修体系について(1) |
| 平成28年12月 | 次年度からの教員研修体系について(2) |
| 平成29年 1月 | 教員育成指標の作成と研修のラーニング・ポイント制の研究について |
| 平成29年 2月 | 教職大学院と教育研究所の連携・協働体制について |
| 平成29年 3月 | 実践研究福井ラウンドテーブルの振り返り |

III 連携による研修についての考察

(連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等)

教育研究所とは、連携協議委員会をはじめとして、機会あるごとに連携・協働しながら、教員研修の改善・充実に当たることができている。これは、教育研究所が当教職大学院の拠点校として位置付いていることに伴い、教職大学院の院生の中に教育研究所の所員が継続的にいること、これに対応して教職大学院の教員の中に教育研究所担当がいること等があげられる。さらに、平成29年度からは、教育研究所施設内に教職大学院の分室を設け、日常的に連携・協働が図れるような環境を整備する予定である。

また、中教審答申や教育公務員特例法の一部改正等を踏まえ、これまでの教員研修体系を見直し、平成29年度から、教職大学院で行ってきた教員免許状更新講習を教育研究所の研修体系の中に組み入れ(位置付け)たり、研修体系と連動した教員育成指標の作成と研修のラーニング・ポイント制の研究を行ったりするなど、更なる連携・協働を図っていくこととしている。

IV その他

[キーワード] 教育委員会との連携、ラウンドテーブル、学校マネジメント

[人数規模] D (補足事項)

[研修日数(回数)] B (補足事項)

【問い合わせ先】

国立大学法人 福井大学

大学院教育学研究科（教職大学院） 倉見 昇一

〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9番1号

TEL 0776(27)9906